

# 新井柿崎線整備、今年度も県議と一緒に運動

## 新柿線整備促進議員連盟が今年度の総会開催



県道新井柿崎線整備促進議員連盟の総会及び平成19年度要望についての報告会が22日、高田の高陽荘で開催されました。

総会では今年度の予算と方針、役員体制などを決めました。役員については、三和区選出の宮崎政国議員が引き続き会長に選出され、新事務局長には大潟区選出の内山米六議員が就任しました。今年度の運動方針の中で、今年度も来月に現地調査に入り、県に要望していくことを確認しました。

報告会(上の写真)には上越市選出の県議、新潟県上越地域振興局の幹部などが招かれました。来賓として挨拶に立った上越地域振興局の白石秀一地域整備部長は、「今年度の県の道路整備予算は1679億円で前年よりも167億円減っている。厳しい財政状況が続いているが、来年度についてはまったく不透明となっている」「新井柿崎線は全長31・7キロ。上越市の南北を結ぶ重要路線だ。管内の主要道路でも一番名が通っていて、格としては国道クラス。まだまだ整備しなければならぬ路線で、地元の皆さんの協力を得ながら整備していきたい」とのべました。

昨年度、議員連盟として県に整備を求めたのは歩道整備、防雪柵設置など21か所。三和区本郷地内などで一定の整備が実現されてきていますが、なかなか前進しない状況にあります。地吹雪に弱いということ、整備を強く求めている防雪柵設置については、昨年、山間部の雪崩防止工事を優先させるので少し待ってほしいとのことでした。この雪崩防止工事は妙高市内のスノーシェッド工事です。当初、3年くらいで終わらせたいというところでしたが、財政難でいまま少し時間がかかりそうです。ただ、新井柿崎線の地吹雪対策として、当面は仮設型の防雪柵設置で対応していくとの表明がありました。党議員団に

も関係住民から要請のあった頸城区上増田地区の交差点改良もなかなか前進してませんが、この日の会議では、信号にこれまでより時差をつけたのでいくらか改善されたのではないかと報告がありました。

### 原発全国交流集会で報告

原発問題全国住民運動連絡センターなど3団体共催による全国交流集会が21日、柏崎でありました。この集会で私は、このほど見直されたばかりの上越市地域防災計画中の原子力防災計画について報告してきました。



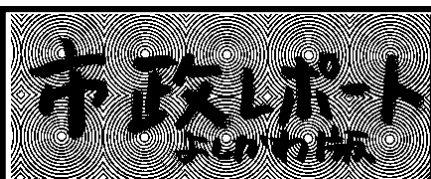
原発から10キロ以上離れた自治体が原子力災害対策を地域防災計画に入れたのは県内では初、全国的にも鳥取県米子市くらいです。上越市の対策は旧吉川町時代のヨウ素剤保管の取り組みなどを発展させたもので、注目されています。

### 今度は市文化財展へ …長峰遺跡のミニ土偶

2年前、津南町で出張展示されたことのある長峰遺跡のミニ土偶(写真)が今度は市文化財展で展示されることになりました。

全国でも最小クラスといわれているこの土偶は妊婦をかたどったもので、「表現手法はすばらしく」「女性の妊娠・出産という新たな生命を産みだす力への賛嘆」(津南町の企画展)と紹介されたことがあります。ぜひご覧ください。

今回の文化財展は26日から9月23日まで、高田公園内の市立総合博物館で開催されます。一般の人は400円、市内の小中学生は無料。



NO 1356  
2008.7.27

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
TEL 548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/